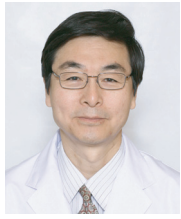


堀井 基行 京都府立医科大学 附属病院リハ部 整形外科学教室



この度は、近畿地方会幹事会の仲間入りをさせていただきありがとうございます。私は、1983年の京府医大卒業後、整形外科学教室に入局いたしました。関節外科を中心とした整形外科臨床とともに、京都府立心障センター附属リハ病院での脊髄損傷や切断者のリハ、更正相談所での障害認定業務や補装具の処方・適合判定、京都地域医療学際研究所附属病院副院長兼リハ部部长として高齢者やスポーツ障害のリハ等の実践を経験し、リハ医学の重要性を痛感しております。現在は京都府立医科大学附属病院リハ部副部长として、急性期リハの実践とともにパラメディカルスタッフや学生教育にも取り組んでおります。健康寿命延伸や多様化するスポーツ活動などリハ医療への大きな期待に答えられるよう、地域での活動を通して少しでもお役にたたくと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本リハビリテーション医学会 専門医会幹事就任のご挨拶

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学
中村 健

平成24年11月に行われた日本リハビリテーション医学会専門医会(以下、専門医会)幹事選挙によりご選出いただき、このたび専門医会幹事を務めさせて頂く事となりました。今回の幹事選挙では、近畿地方会の皆様方には多大なご声援、ご支援をいただき大変感謝しております。現在、近畿地方会副代表幹事も務めさせていただいており、近畿地方会としっかり連携をとりながら専門医会幹事としての役割を果たしていきたいと考えております。

専門医会は、平成18年に日本リハビリテーション(以下リハ)医学会の組織として設立されました。設立の目的には、「専門医会は、リハ科専門医の資質向上を図り、関係する研究・研修活動に積極的に取り組み、リハ医学・医療の発展と普及に寄与することを目的とする。」と掲げられています。つまり、専門医会には、専門医が連携を取りながら学術集会や研修会を通してリハ医療の質を高め、またリハ医学に貢献する基礎研究、臨床研究を推進していく事が求められています。さらに、リハ医学・医療を全国に普及させて行く事も重要な役割となっております。このためには、各地方会との協力も重要になります。私は、近畿地方会よりの唯一

の専門医会幹事でありますので、全国の専門医との交流を通して近畿地方のリハ医学・医療の発展と普及に貢献させて頂ければと考えております。しかし、これには近畿地方会の皆様方のご協力なくして行いう事は出来ません。皆様方のご協力、ご指導のほど宜しくお願い致します。

専門医会学術集会開催期間中の11月18日に、新専門医幹事において第1回目の幹事会が開催されました。この中で、幹事会が進めているSIG (Special Interest Group) 活動の1つであるリハ医学基礎研究SIGの担当幹事を引き受けさせて頂く事となりました。私は、これまでリハ医学の中では、基礎研究がそれほど重要視されていなかった面もあるのではないかと感じております。しかし、基礎研究は、医学の発展、医療の質の向上のためには必要不可欠であることは言うまでもありません。当然、リハ医学・医療においても同様です。今後、リハに関連した基礎研究を推進するための活動もしていきたいと考えております。近畿地方会の皆様も基礎研究をしている、していないに関わらず基礎研究に興味のある方は、基礎研究SIGにご参加頂き、基礎研究の推進にお力を貸して頂ければ幸いです。

今回、10名の新専門医幹事が選出されましたが、私は、専門医会幹事としては新人です。このため、不慣れな点もあり上手くいかないところもあるかと思えます。ただ、新しい視点から私が果たすべき役割が多くあると考えております。専門医会幹事として、精一杯頑張りたいと思いますので、今後ともご支援のほど宜しくお願い致します。

近畿地方会誌について

『リハビリテーション科診療近畿地方会誌』編集委員長
阿部 和夫
大阪保健医療大学

近畿地方会の発行する学術誌に、『リハビリテーション科診療近畿地方会誌』があります。今年も12月になってようやく最終原稿が完成し、現時点で、校正作業に取りかかっています。学会の地方会が発行する学術誌は、あまり例がありませんが、(1)経験の少ない先生が論文の書き方を学習する手伝いをする、(2)論文執筆の時間が取れない先生の手助けをする、など、地方会という小さなまとまりでのみ可能になるサービスの提供を目的としています。本会誌は、医学中央雑誌(医中誌1347-3956)にも登録されており、“業績”にもなります。しかし、筆頭著者としての論文がリハビリテーション科専門医受験の必要要件から外されたためか、他学会でも問題となっている和文論文誌への投稿数が減少していることと同じ現象なのか、論文の募集には、苦勞しています。

査読システムがあることが、“業績”としての条件ですが、他の学術誌では、担当の査読者が真摯な態度で論文を読んでいない、査読意見に適切に対応しているにもかかわらず明確な理由なしに掲載を拒否された、などの不満を聞くことがあります。欧文誌の中には、査読過程に不満がある場合には、公開で査読過程を検証し、不適切な査読者を排除することも行われています。教育的な目的を持つ本地方会誌では、寄せられた原稿に親切に対応することで、このような不満が減るように努力をしています。しかし、投稿者の先生も、共著者と協力をして論文の体裁を整える努力をし、査読を十分行えるように時間的な余裕を持って投稿していただくようお願いいたします。また、症例報告が軽視されている傾向が、学術誌では増えてきており、症例を投稿する機会がないという意見もあります。症例報告を正確に行うためには、論文検索をして精読を行う必要があり、症例報告を行うことで医師として基本的な技術を身につけることができます。本地方会誌では、様々な型式での症例報告も歓迎します。

独自の学術誌を発行するという近畿地方会のすばらしい伝統を守っていくためにも、講演された内容、教育的なリハビリテーションについての報告、比較的まれな疾患のリハビリテーション経験、リハビリテーションへの提言、などの原稿をお寄せ下さい。